



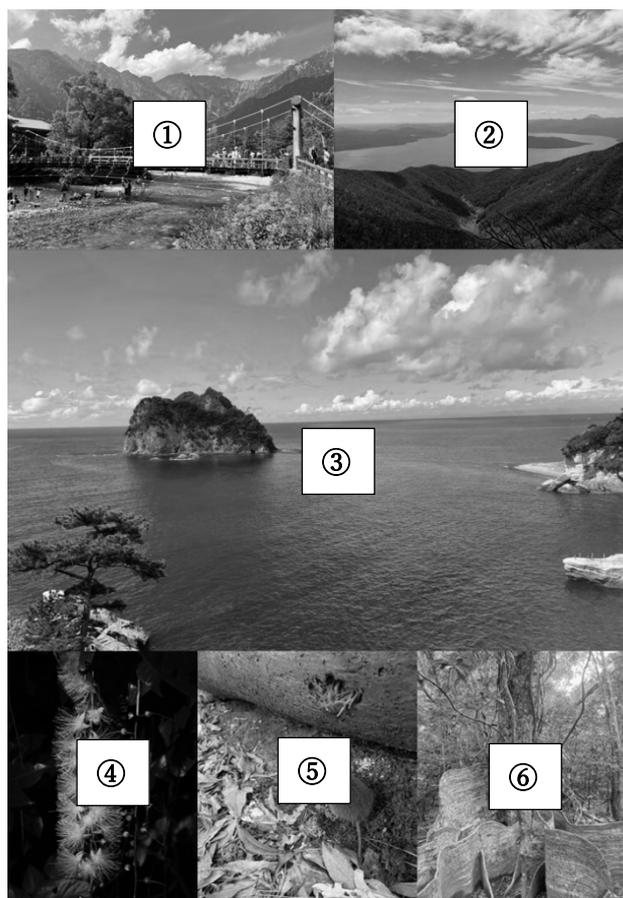
レンジャーになりたい



令和 8 年度入省予定

環境省総合職自然系 内定者の声





～表紙の写真～

- ①上高地 河童橋/中部山岳国立公園
- ②屈斜路湖/阿寒摩周国立公園
- ③堂ヶ島/富士箱根伊豆国立公園
- ④サガリバナ/西表石垣国立公園
- ⑤アマミトゲネズミ/奄美群島国立公園
- ⑥サキシマスオウノキ/西表石垣国立公園

はじめに

令和 8 年度版環境省総合職自然系『内定者の声』をご覧いただきありがとうございます。

本冊子は、環境省自然系職員（通称：レンジャー）を志望する方々を主な対象に、令和 8 年度入省予定の総合職自然系内定者が、自身の就職活動の体験談をまとめたものです。身近に OB・OG のいない方、説明会等に中々参加できない方など、採用情報等へのアクセスが困難な方々にも、公平で有益な情報を提供することを目的としています。

レンジャーは、国立公園や野生動植物の保護管理、外来生物対策など、自然環境の保全に携わる国家公務員です。内定者は皆、レンジャーへの高い志と熱意を持ち合わせる一方、受験科目や志望動機、官庁訪問の対策などは多様で、それぞれ異なる背景や想いを抱えています。こうした内定者の率直な声や就職活動の様子を、次ページ以降にて紹介しております。

本冊子が、皆さまの進路選択やレンジャーへの理解を深める一助となれば幸いです。

令和 8 年度 環境省総合職自然系 内定者一同

※本冊子は令和 7 年度の情報を基に作成しております。令和 8 年度以降の国家公務員試験・官庁訪問等のスケジュールにつきましては、人事院および環境省ホームページにてご確認ください。

目次

| | |
|---------------------|----|
| 基礎情報..... | 4 |
| 内定者概要..... | 7 |
| 内定者たちの体験談..... | 10 |
| Aさん..... | 10 |
| Bさん..... | 13 |
| Cさん..... | 16 |
| Dさん..... | 18 |
| Eさん..... | 21 |
| Fさん..... | 24 |
| Gさん..... | 27 |
| Hさん..... | 30 |
| Iさん..... | 33 |
| Jさん..... | 36 |
| Kさん..... | 39 |
| 内定者による内定者アンケート..... | 42 |
| 受験で使った参考書・資料一覧..... | 49 |
| おわりに..... | 51 |



南崎/小笠原諸島

基礎情報

* 令和 7 年度 国家公務員総合職試験および内定までの流れ *

〈注意！〉最新の試験情報は、[国家公務員採用情報 NAVI](#) にてご確認ください。

【国家公務員採用情報 NAVI : <https://www.jinji.go.jp/saiyo/siken.html>】

| | 日程 | 内容 | 備考 |
|------------|-----------------------------------|---|--|
| 国家公務員総合職試験 | R6.12.25 | 受験案内 HP 掲載開始 | |
| | R7.2.3 -R7.2.25 | 申込受付期間（インターネット） | |
| | 3.16 | 第一次試験日 午前：基礎能力試験 （多岐選択式） 午後：専門試験（多岐選択式） | 服装自由 翌日 HP に正答番号掲載 |
| | 3.31 | 第一次試験合格者発表日 | HP 筆記に第 1 次試験合格通知書掲載 第 1 次合格通知書に筆記試験の案内 |
| | 4.13 | 第二次試験日（筆記試験） 院卒：9:30-13:30 大卒：9:30-17:00（午後は政策論文試験） | 服装自由 人物試験の日時・試験場の通知は後日 |
| | 院卒 5.7-5.16 大卒 4.21-5.16 | 第二次試験日 院卒は人物試験と政策課題討議試験 大卒は人物試験のみ | 原則日時変更不可 人物試験は面接官 3 人：受験者 1 人で 20 分程度 政策討議試験は受験性 5～6 人で意見作成・発表→討議 <u>提出物忘れないように！</u> <u>スーツ着用！</u> |
| | 5.30 | 最終合格発表日 | HP に合格通知書掲載 |

| | | | |
|------|-----------|--------------------------|---|
| 官庁訪問 | 6.2-6.10 | 総合職自然系 官庁訪問予約・申込票受付期間 | 事前に訪問者カードを作成し、 予約時にメールで提出 訪問者カードの作成は計画的 に！ |
| | 6.11-6.13 | 官庁訪問 第1クール | オンライン/対面で選択可能 1日に2～4回の面接 クールビズ推奨 |
| | 6.16-6.18 | 官庁訪問 第2クール | 指定日に対面面接 1日に2～3回の面接 |
| | 6.23 | 内々定解禁 | 内々定の通知が電話とメールで きます |
| | 10.2 | 採用面接・内定式 | 対面で面接の後、内定式 |



高千穂峰と御池/霧島錦江湾国立公園

* 環境省の仕事について *

- ・環境省には、事務系、理工系、自然系の3つの職種があります（本省採用の場合）。
 - ・自然系職員（レンジャー）は主に、国立公園等の指定や管理、野生動植物の保護・管理、自然環境に関する調査及び施設整備など、幅広い自然環境分野の業務に従事します。
- 詳しくは[環境省自然系の採用情報](#)をご参照ください。

【自然系採用情報：https://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_3all/index.html】

* 国家公務員試験の試験区分 *

- ・総合職自然系では、大卒・院卒者試験ともに「森林・自然環境」または「化学・生物・薬学」の2つの試験区分から採用されます。

令和8年度入省予定者11名の試験区分内訳は下の内定者概要をご参照ください。

※試験区分によって入省後の業務内容が変わることはありません。

※試験区分及び卒業区分の選択は採用の可否に全く影響しません。

- ・詳細な試験内容等については[受験案内](#)をご参照ください（年度にご注意ください）

【受験案内一覧：<https://www.jinji.go.jp/saiyo/siken/jyukennannnaiichiran.html>】

* 官庁訪問 *

- ・国家公務員総合職試験に最終合格すると、受験した試験区分に対応した省庁へ官庁訪問ができるようになります。官庁訪問とは各省庁でのいわゆる「採用面接」で、訪問者カード（エントリーシートに近いもの）を提出したうえで面接を受けます。官庁訪問こそが、志望省庁から採用されるための最後にして最大の難関といえます。

・総合職の官庁訪問は、第1～第4クールの4回、およそ2週間にわたって実施されます。原則として1クールにつき1つの省庁への訪問は1回までで、通過すれば次のクールの訪問に進むことができます。詳細な採用までの流れについては[こちら](#)をご参照ください。

・総合職自然系の官庁訪問は、例年第1・第2クールの計2回実施されています。令和7年度の第1クールは事前予約制で、面接希望日及び対面かWeb面接かを選択できました。第2クールは、第1クール通過後に日程をメールで通知され、対面で実施されました。他の省庁にも訪問予定の方は、これらを踏まえて事前にどの省庁をいつ訪問するのかを検討しておくといでしょう。総合職自然系の官庁訪問の詳細は[こちら](#)をご参照ください。

【採用までの流れ：https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo/sougou/saiyo_sougou02.html】

【総合職自然系官庁訪問：https://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_3all/homon-sogo.html】

内定者概要



硫黄山/阿寒摩周国立公園

| | | | | | |
|-------------|--------------------------------|---|---|---------------------------------|--------------------------------|
| 名前 | Aさん | Bさん | Cさん | Dさん | Eさん |
| 卒業区分 | 院卒 | 院卒 | 院卒 | 大卒 | 院卒 |
| 大学での専攻 | 行動生態学 | 森林科学 | 系統分類学 | 森林計画学 | 保全遺伝学 |
| 研究テーマ | バイオロギング手法を用いた動物の行動生態解明 | ミズナラの萌芽更新が土壌微生物群集に及ぼす影響 | 北海道に生息する紅藻リュウモンソウ科の系統分類 | 列状間伐地における3次元点群データを用いた光環境評価手法の検討 | 小笠原諸島で域外保全が行われている希少陸産貝類の集団遺伝学 |
| 試験区分 | 森林・自然環境 | 森林・自然環境 | 化学・生物・薬学 | 森林・自然環境 | 森林・自然環境 |
| 一次試験選択科目 | 森林環境科学 森林資源科学 造園計画（自然公園） | 森林環境科学 森林資源科学 森林生物生産科学 | 生化学・分子生物学 応用微生物学・生物工学 発生生物学・生理学 細胞生物学・放射線生物学 遺伝学・進化学 生態学・系統分類学 | 森林環境科学 森林資源科学 森林生物生産科学 | 森林環境科学 森林資源科学 造園計画（自然公園） |
| 二次試験選択科目 | 森林科学 | 森林科学 | 遺伝学 生態学 | 森林科学 | 自然環境・公園緑地 |
| 併願先 | 国家一般職、地方公務員 | 林野庁、シンクタンク、環境コンサル、製紙会社、地方公務員（林業職） | 国家一般職 | 林野庁、県庁（林業） | 林野庁、原子力規制庁、国家一般職 |
| ガクチカ | 研究、外来生物防除 | 持続可能な森林管理の実現に向けての学部・修士研究、体育会部活動における組織運営 | 演劇サークルの運営、ラジオ局でのアルバイト経験 | 森林管理の実習と研究、弓道部での女子主将経験 | 研究活動 |
| 趣味 | 博物館巡り、旅行、散歩 | 旅行、御朱印集め、水族館巡り、音楽 | 演劇等の鑑賞、釣り、旅行 | 弓道、スポーツ観戦、ピアノ、旅行 | 日本酒、ボードゲーム |
| 環境省インターンシップ | 自然保護官事務所、サマートライアル | なし | なし | なし | なし |

| 名前 | Fさん | Gさん | Hさん | Iさん | Jさん | Kさん |
|-----------------|--|---|--------------------------------|---|---|-----------------------------|
| 卒業区分 | 院卒 | 院卒 | 院卒 | 院卒 | 院卒 | 院卒 |
| 大学での専攻 | 森林科学、生態学 | 動物系統学 | 保全生態学 | 細胞生理学 | 生圏システム学 | 自然環境学 |
| 研究テーマ | 森林性カエルの生態研究 | ジネズミ類の形態 | 鳥類の遺伝解析 | クマムシの極限環境耐性機序の解明 | 人々の生き物に対するネガティブな感情が生物多様性保全に及ぼす影響と緩和策の検証 | 能登半島地震及び豪雨における斜面変動 |
| 試験区分 | 森林・自然環境 | 化学・生物・薬学 | 森林・自然環境 | 化学・生物・薬学 | 森林・自然環境 | 森林・自然環境 |
| 一次試験 選択科目 | 森林環境科学 森林資源科学 森林生物生産科学 | 生化学・分子生物学 栄養生化学・生理学 物理量学・放射線生物学 遺伝学・進化学 生態学・系統分類学 | 森林環境科学 森林資源科学 造園計画（自然公園） | 生化学・分子生物学 応用微生物学・生物工学 発生生物学・生理学 細胞生物学・放射線生物学 遺伝学・進化学 生態学・系統分類学 | 森林環境科学 森林資源科学 森林生物生産科学 | 砂防学基礎 砂防工学 造園計画（自然公園） |
| 二次試験 選択科目 | 森林科学 | 遺伝学 生態学 | 森林科学 | 遺伝学 生態学 | 自然環境・公園緑地 | 国土保全 自然公園・公園緑地 |
| 併願先 | 林野庁、国土交通省、 地方上級（林業職）、 建設（環境）コンサル | なし | なし | なし | なし | 文部科学省、 環境コンサルタント |
| ガクチカ | 体育会部活動の運営、 NPO 法人との共同研究 | 部活（陸上競技） | 民間企業のインターン、 地方公務員の業務 | クマムシに関する研究、 サークル活動のマネジメント | 大学院での研究活動、 シンクタンクでのアルバイト | 個別指導塾のアルバイト、 多種類のサークル活動 |
| 趣味 | 音楽、スポーツ観戦、旅行 | ギター、読書 | 動物園巡り、楽器、読書 | 自然散策、弓道、映画鑑賞 | 野球観戦、散歩、旅行、 ゲーム、ギター | 登山、アニメ、 ゲーム、スポーツ |
| 環境省 インターンシップ | 地方環境事務所 | なし | 本省 | 本省 | なし | なし |

内定者たちの体験談

～志望動機や試験対策・官庁訪問等、内定者の体験談～

Aさん

【最終学歴】 修士課程修了→地方公務員

【学年/選考分野】 既卒/行動生態学

【試験区分】 森林・自然環境

【試験年度】 2025

【参加した説明会】

自然系説明会、オンライン職員訪問、
インターンシップ(自然保護官事務所)、
サマートライアル

【併願先】

国家一般職、地方公務員(生物職)



(1)志望動機

レンジャーを意識したきっかけは、中学生の頃、地元の博物館で出会った元レンジャーの学芸員の方の存在でした。その方は、当時世界自然遺産の候補地となっていた琉球諸島の生き物をテーマに特別展を企画し、自然保護官事務所に赴任していた際の経験や人脈を活かしつつ展示を作り上げていました。その姿に惹かれるとともに、展示を通じて生き物の魅力に触れました。また、その生息環境を守るための調査や保全活動が行われていることを知り、自然環境を守る仕事に携わりたいと考えるようになりました。

その後、自治体職員として自然環境行政に携わる中で、自然共生サイトの認定や奄美大島でのフィリマングース根絶宣言など、国の制度や取組が地域の自然環境保全の方向性を示し、現場を後押ししていることを認識する機会を得ました。また、現場に関わる中で、制度が取組の実効性や継続性を支え、多様な主体を結び付ける基盤となっていることを実感し、制度の重要性を認識するようになりました。

これらの経験から、地域の取組を支える制度の設計や運用に関わりたいと考えるようになりました。国内外の動向を踏まえつつ、自然と共生する社会の実現に向けて、制度面から自然環境保全を支える役割を担いたいと考え、自然系総合職職員を志望しました。

(2)体験記

●全般

2024年4月から専門学校の公務員講座を活用し、基礎能力試験の勉強を始めました。仕事終わりに週2~3回のペースで学習を進めました。また、過去の内定者の声でも言及されていますが、TOEICは就活だけでなく、進学や留学など幅広い場面で役立つ資格です。早いうちに受験しておくのと良いと思います。また、過去問は人事院への申請から手元に届くまでに1か月ほどかかったため、余裕をもって手続きを進めておくことをお勧めします。

●一次試験【基礎能力試験】

数的処理・判断推理は、3分考えても糸口が見つからなければ、解答・解説を確認し、問題数をこなして解法パターンを頭に入れるようにしました。また、試験本番でも雰囲気や緊張に左右されず自分のペースを保てるよう、過去問演習では①時事・知識問題②数的処理・判断推理③文章理解④解けなかった問題の順で解く練習をし、各パートのおおよその所要時間も決めて本番に臨みました。

●一次試験【専門多肢選択式試験】

11月頃から過去の内定者の声を参考に独学で勉強を始めました。森林・砂防・木材の知識はゼロの状態、対策に割ける時間も限られていたので、当初から科目を決めて勉強をしました。一通り勉強してから過去問を解くより、まず過去問を解いて、分からない単語や誤答を参考書等で調べる方が記憶に残りやすく効果的でした。最初は分からない問題ばかりで不安でしたが、次第に見覚えのある内容が増え、自然と解けるようになりました。過去5年分の過去問を解き、各選択肢の誤りを修正しつつ、最新の動向や関連知識を書き加えながら対策を進めました。

●二次試験【専門記述式試験】

一次試験終了後に対策を開始しました。過去の出題傾向を参考に、官報で公表される試験専門委員の研究分野と白書の内容が重なる領域から、出題が予想されるテーマを選び、集中的に対策を行いました。しかし、対策が不十分だった分野からの出題に対応しきれなかったため、一次試験対策時のインプットに慢心せず、持っている知識を再構成し、解答に反映させるアウトプットの練習を偏りなく重ねておくことが重要だと感じました。

●二次試験【人物試験】

面接カードの記載内容をもとに質問が行われます。文字数は限られていますが、面接ではその内容を深掘りされるので、事前に整理・準備しておくことが重要だと思います。

●二次試験【政策課題討議】

特に対策は行いませんでした。限られた時間の中で資料の読み取りとレジュメ作成を行う必要があります、制限時間が短く感じました。レジュメの構成をあらかじめイメージしておく、見やすい資料を作成する余裕が生まれ、その後のグループワークもスムーズに進められると思います。

●官庁訪問

官庁訪問は、最後にして最大の難関でした。実務を担っている方々との議論は貴重な経験で、それまでの面接練習とは一線を画す内容の具体性があり、自分の考えが試される時間だったように思います。入省後に挑戦したいことを複数用意し、特に関心が強い分野を中心に話しましたが、やり取りの中で行き詰まる場面もあり、自分の中で方針を変えることもありました。面接官からの質問に対して「なぜ環境省なのか」「なぜ総合職なのか」を意識しつつ、自分の言葉で的確に伝えることが重要だと感じました。そうすれば、自然と熱意も伝わるのだと思います。

●内定までの過ごし方

内定者としてここに掲載されていますが、官庁訪問の最終面接を終えた時点では内々定をもらえませんでした。結果を知った時は大きなショックを受けましたが、「制度面で自然環境保全に貢献したい」という思いは揺らぐことはなく、周囲に相談した上で一般職官庁訪問への参加は見送り、翌年に改めて挑戦することを決めました。より深く環境省の仕事を知り、次の挑戦に向けてモチベーションを高めるため、8月開催のサマートライアルに参加しました。翌年度の官庁訪問を迎える前に内々定の連絡をいただくことができました。

今回のような経緯は一般的ではないと思いますので、同じ結果を期待できるものでもありません。ただ、「なぜ志望するのか」「そのために何が必要か」を改めて考えた時間は、自分の気持ちを整理し、次の行動に踏み出す上で確かに力になりました。国家公務員試験は長丁場で、不安を覚える場面もあるかと思いますが、その中で立ち止まり、自分と向き合う時間を持つことは、結果とは別のところでも大きな意味があると思います。

●アドバイス・メッセージ

出典は井上ひさし氏の短編小説『握手』に登場する人物の言葉で、さらに遡るとフランスの哲学者デカルトの名言としても知られています。この言葉は就活に限らず、人生のあらゆる場面で金言になると思います、ここに皆さんへのメッセージとして、また初心を忘れぬよう自戒を込め、『握手』の一節を引用します。

「仕事がうまくいかないときは、この言葉を思い出してください。『困難は分割せよ。』あせってはなりません。問題を細かく割って、一つ一つ地道に片づけていくのです。ルロイのこの言葉を忘れないでください。」

Bさん

【最終学歴】 修士課程修了

【学年/専門分野】 修士2年/森林科学

【試験区分】 森林・自然環境

【試験年度】 2025

【参加した説明会、インターン等】

オンライン説明会(2回)

【併願先】

林野庁、シンクタンク、環境コンサル、
製紙会社、地方公務員（林業職）



(1) 志望動機

豊かな自然と豊かな暮らしが調和した社会を次世代につなげたいという思いから志望しました。海と山に囲まれた地域で生まれ育ったこともあり、幼いころから自然の中でのんびり遊ぶのが好きでした。また自然の恵みを生活の中で身近に感じていたため、気づいた時には豊かな自然をずっと大切にしたいという思いがありました。大学・大学院での学びと研究を通して、自然資源の活用によって社会課題の解決に取り組みたいという思いが強くなり、自然の保護・利用・管理のすべてに携わり、地域との協働や科学的視点に基づく制度設計を通して、人と自然をつなぐ役割を担うレンジャーを志望するに至りました。また、環境省では幅広い政策領域から自然環境を取り巻く様々な課題に向き合える点にも、大きな魅力を感じました。

(2) 体験記

●全般

大学では森林科学を専攻しており、森林・自然環境の基礎知識はあったこと、また研究との両立が難しかったことから、集中して勉強した期間は1ヵ月ほどだったと思います。修士1回生の夏ごろに受験を決め、まず前年の過去問を解き、自分の対策すべき部分をざっくりと把握した後は、試験に合格された研究室の先輩から、アドバイスや自作のまとめ資料をいただき、人事院のHPに掲載されている過去問を中心に勉強しました。TOEICは試験対策に割く時間を作れず、運よく加点対象のスコアを取得できたため加点制度を利用しました。ただ、確実な得点源とするためにも、もっと早くから対策し、余裕をもって人事院試験を迎えるべきだったと後悔しています。

●一次試験【基礎能力試験】

数的推理に苦手意識があったため、その対策のみに集中しました。解説がある問題集を使う方が向いていると考えたので、過去問は直近2年分のみとし、主に「新スーパー過去問ゼミ」を使って勉強しました。時事問題対策は、「速攻の時事」を試験直前の1週間に読みました。

●一次試験【専門多肢選択式試験】

過去問を解き、わからなかった部分を森林・林業白書で確認するという方法で勉強を進めました。頻出テーマと、その年の白書で特に扱われているトピックは内容をノートにまとめ、直前まで繰り返し確認しました。

●二次試験【専門記述式試験】

1次試験合格発表後に対策を始めました。1次試験本番で理解が不十分だと感じた範囲を、白書や大学の授業資料を活用しながら復習しました。過去問は、公式解答が公開されていなかったため、文章でしっかり書くというより、頭の中で自分なりの解答をイメージし、その際に不足している知識を白書や大学の授業資料で補う、という方法を繰り返しました。

●二次試験【人物試験】

面接カードを作成し、研究室の同期や先輩に添削と面接練習をお願いしました。本番は面接カードの内容を深掘されるものでしたが、カードは簡潔にまとめる必要があったため、抽象的な表現になっていた部分があり、その具体的な説明を何度も求められたことが印象に残っています。

●二次試験【政策課題討議】

討論用のレジュメの書き方を確認した以外に特に対策はしていません。専門知識は特に必要ないため、客観性は持ちつつ、一般論になりすぎないように意識しながら自分の考えをまとめました。レジュメを作成する時間が短いので、とにかく考えをできるだけ分かりやすくまとめて、書ききることに集中しました。

●官庁訪問

訪問者カードを作成し提出後、歴代の「レンジャーになりたい」や民間就活時の経験を参考に想定問答集を作成しました。必ず聞かれそうな質問については、聞かれる場面を想像しながら複数の答え方を用意し、声に出して練習することで本番での”原稿を読んでいる感”が出ないよう気を付けました。

反省点は、訪問者カードを2次試験合格発表後から作り始め、締切直前まで粘って推敲したため、第一希望日に訪問できなかったことです。結果的に第一クールは3日目午後の

訪問になりました。「第一志望省庁には初日に行かないと不利」という噂もあり不安でしたが、人と話すのがとても好きなこともあり、活躍されている職員の方々とお話しできる貴重な機会だ！と楽しみな気持ちが大きかったです。2日目の他省庁の訪問が終わった後、しっかりと睡眠をとって翌日に備えました。面接は、訪問者カードの内容に沿った質問が中心で突飛なものではなく、和やかな雰囲気でした。一つ一つの質問に対して実体験をもとにした回答を、自分の言葉で話すように意識しました。1日に3~4回の面接がありましたが、空き時間にはそれまでの回の内容を整理し、逆質問でより深い話ができるよう準備していました。

官庁訪問については様々な情報が飛び交っていますが、環境省自然系は他省庁とは様子が異なるため、あまり参考にならないと思います。年度によって変わるかもしれませんが、本冊子のような内定者の声やOB訪問などを参考にさせていただけたらと思います。

●内定までの過ごし方

定期的に気持ちをリフレッシュするようにしていました。就職活動の期間は、不安や焦りでかなり心が削られました。研究室の同期と悩みを共有したり、試験や面接が一つ終わったらこれをする、という楽しみを決めて、友人と美味しいものを食べに行ったり、河川敷でピクニックをしたり、自然の中で過ごしたりしていました。気持ちが沈んでいると上手くいくものもいなくなると思うので、終わった後はしっかり振り返りつつ、「今の自分にできることはやり切った」と切り替えるよう意識しました。たくさん話を聞いてくれた家族、同期、友人には感謝の気持ちでいっぱいです。

●アドバイス・メッセージ

歴代の「レンジャーになりたい」を読んで、「目指すのが遅すぎたのでは」「今からでは間に合わないのでは」と不安を抱えている皆さんへ。私も同じ気持ちでした。二次試験合格後によくレンジャーを受ける決心がつき、内定者の皆さんの志の高さと熱量に圧倒され、「私ではもう間に合わないかもしれない」と冊子を読むたびに弱気になったことを覚えています。もちろん早くから志を持つに越したことはありませんが、この職に就きたいというまっすぐな気持ちがあれば、あとは挑戦するのみです。諦めずに一歩踏み出してみてください。私は官庁訪問で感じた省庁の雰囲気が決め手となり、入省を決めました。職員の方々と実際にお話する機会は多い方がよいと実感したので、職場の雰囲気を重視される方は、インターンやOB訪問などを積極的に活用されることをおすすめします。

Cさん

【最終学歴】 修士課程修了見込み

【学年/専門分野】 修士2年/系統分類学

【試験区分】 化学・生物・薬学

【試験年度】 2025

【参加した説明会、インターン等】

自然系説明会3回、オンライン職員訪問1回

【併願先】

一般職



(1)志望動機

国立公園事業の発展とネイチャーポジティブの実現に、政策面から関わりたいという思いから志望いたしました。その原点は、小学生の頃に訪れた日光で国立公園に強い憧れを抱いた経験です。大学の専攻は系統分類学でしたが、フィールドワークにて、環境変動による個体数の減少や、生息地の移動を余儀なくされる生物の姿を目の当たりにし、生物多様性が失われつつある現状に強い危機感を覚えました。進路を考える中で環境省の説明会や資料に触れ、国立公園を支える制度や管理体制が自然と人の双方を丁寧に支えていることに感銘を受けました。また、幼い頃の憧れの背景に多くの努力があると知り、今度は自分がその一端を担いたいと強く感じ志望しました。

(2)体験記

●全般

TOEICは前年12月に受けました。

●一次試験【基礎能力試験】

過去問を4年分ほど解き、まずは形式に慣れることを意識しました。初めのうちは時間を測らず、とにかく答えを導くことを優先して演習しました。時事問題については、普段からニュースを確認していたため、特別な対策はしていません。

●一次試験【専門多肢選択式試験】

内容が学部の授業と近かったため、本格的な対策は1か月前から始めました。過去問を6年分解いて傾向を把握し、頻出分野は教科書や授業プリントなどを使って一通り復習しました。2次の専門記述で扱う予定の分野は、そちらも見据えて重点的にインプットしました。

●二次試験【専門記述式試験】

研究が忙しい時期だったため、過去問は2年分ほど解きました。模範解答が存在しなかったため、文明の利器も活用して自分なりの解答を作成しました。

●二次試験【人物試験】

大学のキャリアセンターと相談しつつ面接カードを作成しました。一般企業の採用試験を受けていなかったため、面接練習は複数回行いました。元々環境省以外の志望省庁がなかったため、志望動機には環境省を意識した内容を盛り込みました。

●二次試験【政策課題討議】

対策が後手に回り、試験の2日前にキャリアセンターへ駆け込み、流れを確認しました。本番では、他の受験者の意見をよく聞き、自分の発表に取り入れることを意識しました。

●官庁訪問

訪問者カード作成時は、2次試験と同様にキャリアセンターに相談しました。いわゆる「ガクチカ」に何を書くか迷いましたが、より珍しい経験を選ぶよう心がけ、実際に評価いただいたように思います。

提出が期限間近だったためか、訪問は1日目の夕方からのスタートでした。ただ、拘束時間は他省庁と比べて短めだったと感じました。

当日は建物内では油断しないことを意識し、面接では考えたことのない質問もありましたが、見栄より誠実さを優先するよう心がけました。

●内定までの過ごし方

官庁訪問で逆質問をした際、入省までにやるべき勉強について尋ねたところ、複数の職員の方が「学生の間にはできないことを」と仰っていました。そのため、これまでと変わらず趣味や研究を続けながら過ごしました。

●アドバイス・メッセージ

ここまでお読みいただきありがとうございます。長く体験談を書いてまいりましたが、振り返ると行き当たりばったりで進めてしまった部分も多く、決して正解といえるものではありません。また、そもそも「これが正しい勉強法」というものは存在しないのではないかと考えています。ご覧いただいた皆さまそれぞれに、これまでの勉強体験や受験体験があり、ご自身に合った学び方があることと存じます。もし一部分でも「自分にも合うかもしれない」と感じるものがあれば、そこだけでも取り入れていただければ幸いです。孤独な戦いになるかもしれませんが、同じ志を持つ一人として応援しております。

Dさん

【最終学歴】 大学卒業見込み

【学年/選考分野】 学部4年・森林計画学

【試験区分】 森林・自然環境

【試験年度】 2025

【参加した説明会】

オンライン説明会、オンライン職員訪問

【併願先】 林野庁、地方上級



(1) 志望動機

志望理由は2つあります。

1つ目は幼い頃から森が好きで、自然の素晴らしさを伝えられる人になりたいという目標があったことです。ここから、国立公園管理や野生生物保護の制度づくりを担うレンジャーになりたいと思うようになりました。

2点目は大学での学びを通じて「人と自然の持続的な共生」を実現したいと思うようになったからです。実習で獣害にあった林業現場や放置されて生態系が変化してしまった里山などをみたことをきっかけに、自然の保護・利用と人間の距離の難しさを実感しました。このような課題を解消し、双方がうまく調和した社会を作りたいと考えています。

(2) 体験記

● 全般

私は3年生の7月ごろからの公務員講座を受けており、その頃から少しずつ対策を始めました。専門の勉強も同じ頃にはじめました。専門の方に重きを置き、林業白書を通学時などの隙間時間にとにかく読み込みました。

10月まで部活動が忙しかったため面接の練習を本格的に始めたのは11月ごろで、週に一回ほど練習しました。

● 一次試験【基礎能力試験】

苦手な数的処理はテキスト例題で解法を暗記し、試験前1ヶ月くらいは過去問で、とにかく早く解く練習をしました。しかし文章理解に重点を置いていたこともあり、本番は問題を解ききることはできませんでしたが、焦らずわかるものから着実に解くことを心がけました。時事問題は直前1ヶ月くらいやりましたが難しく解けなかったのもう少ししっかり時間を取れば良かったなと思っています。

●一次試験【専門多肢選択式試験】

専門試験は森林環境科学・森林資源科学・森林生物生産科学を選択しました。内容は大学の授業で教えてもらったことが多かったので、勉強しやすかったです。過去問は10年分ほど解き、大学の資料・森林林業白書・森林林業実務必携で確認する勉強を直前まで繰り返しました。当日は時間が余りましたが、見直しなどをして過ごしました。

●二次試験【専門記述式試験】

選択式の時はなんとなく覚えていけばよかったものも、記述では正確な名称や数値を覚えなければならなかったので時間がかかりました。実際に言葉にする練習は1次試験が終わってから取り組みはじめましたが、選択式の勉強と同時に白書やHPでの情報集めをたくさんしておくと思いいます。

●二次試験【人物試験】

公務員講座と大学のキャリアセンターで何人もの人からアドバイスをもらい、面接カードや面接の答え方を改良していきました。面接官の方は専門の方ではなかったようで、面接カードの卒論に関する部分で使った専門用語の説明を求められることもあったので、難しい言葉は簡単に解説できるようにしておくと思いいます。面接中も優しい雰囲気だったので、緊張しすぎず話すことができました。

●二次試験【政策課題討議】

英語の資料を読んでまとめるのが特に難しかったです。まとめる→自分の意見整理する→書くという作業があるので、時間は思っていたよりギリギリでした。過去問を見て文章構成や資料のまとめ方などの想定をしておくと思いいます。

●官庁訪問

第1クールは2日目にオンラインで訪問しました。環境省の政策についてのグループディスカッションがあり、環境省の政策について討論しました。第2クールはお昼頃から夕方までに3回の面接がありました。どの面接も硬い雰囲気というよりはかたは会話を楽しむような感じで進み、内容的には環境省を選んだ理由と入って何がしたいのかを特に詳しく聞かれました。想定外に踏み込んだ質問が来ても率直に答えることを心がけると良かったです。

●内定までの過ごし方

学科内に公務員志望が多く、高め合っていける友人がいたことは大きな励みになりました。

不安で受験するかどうかから悩んだ時期もあったのですが、先生の「気になった試験に

「どんどん挑戦してみた方がいい」という言葉に後押しされて、終わった今ではいろいろなものに挑戦してみて良かったなと感じています。

国家一般職と県庁の林業職の試験の時期が近く、5月から6月にかけては官庁訪問対策と同時に勉強もしなければならぬので忙しく、精神的にも大変でした。スケジュール管理はしっかりしておくべきだと思います。

●アドバイス・メッセージ

・環境省を見学できる機会や職員の方と直接話せる機会は大切にすると良いです。実際行ったり話したりして職場の雰囲気を知ることが、最終的に決定する際とても参考になります。

・長丁場の試験ではつらくなることも多かったのですが、私は現役職員の方からの励ましの言葉を胸に頑張ることができました。憧れのレンジャーになった自分を想像しながらだと、勉強も捗ります。

大変なことも多くあると思いますが、自信を持って頑張ってください。この体験記が良い参考になることを願っています！

Eさん

【最終学歴】 修士課程修了

【学年/専門分野】 修士2年/保全遺伝学

【試験区分】 森林・自然環境

【試験年度】 2024

【参加した説明会、インターン等】

公務研究セミナー@仙台・霞が関

【併願先】

林野庁、原子力規制庁、一般職



(1)志望動機

希少種や生物多様性の保全を職業にしたいと感じたためです。大学・大学院の研究では、環境省の保護増殖事業の対象となっている小笠原の希少種を対象としており、サンプリングや論文の執筆においては環境省の職員の皆さんに何度もお世話になりました。(その後本省で再会しています!) そうした経験から、アカデミアよりもより実行力のある立場として保全に関わっていきたいと感じたため、環境省を志望しました。

(2)体験記

●全般

以前から情報収集は行っていましたが、公務員試験の受験を本格的に決めたのは秋から冬にかけてでした。このころから過去問や問題集をやんわりと集めはじめましたが、実際に試験勉強を始めたのは年が明けたころだったかと思います。しかしながら、英語試験だけは早期の受験をお勧めします。スコアの有効期限も事前にチェックしておきましょう。私は有効期限の確認を怠った結果使用できず、泣く泣く25点を失いました。

●一次試験【基礎能力試験】

新スーパー過去問ゼミの数的推理と判断推理から難易度の高そうな問題だけをかいつまんで解いていました。過去問を解いてみると何となくの難易度にイメージがつくかと思いますが、過去問ゼミはかなり難易度の幅が広いです。研究や公務員以外の就活で忙しいことも加味すると、解く問題は絞るのが無難だと思います。試験が近づいてきた時期から過去問にも手を付けました。

●一次試験【専門多肢選択式試験】

基本的には過去問を解き、間違えた部分は白書や実務必携で確認することの繰り返しでした。しかしながら過去問以外に解けるちょうどいい問題はなかったので、手持ちの過去

問を解き終わってしまっただけからは何をしようかと悩んだ記憶があります。

●二次試験【専門記述式試験】

こちらと同じく過去問を解くのがメインでした。1次試験の手ごたえがよかったこともあり、数年分解いて満足してしまいました。内容は1次試験とオーバーラップする部分が多いので、回答の文量やペース配分に慣れておく程度でも十分な場合が多いかもしれません。余裕があれば他人に読んでもらい、文章量と読みやすさを確認してもらうのもいいかもしれません。

●二次試験【人物試験】

非常に当たり障りのない内容をサラッと聞かれたという記憶しかありません。よくある想定問答から逸脱するような質問もなかったので、後に控える官庁訪問の練習くらいの感覚でいいかもしれませんね…。

●二次試験【政策課題討議】

こちらは全く対策をしていませんでした。かろうじて試験の形式は知っていたものの練習する場はなく、ほとんどぶっつけ本番といってよい状態でした。しかしながら、テーマはわかりやすく、形式もほぼディベートです。特殊なことをしなくてはいけないと意気込む必要はありませんでした。資料を読み込む時間も十分にあるので落ち着いて論点をわかりやすく(できれば反駁もイメージして)、読み込めば対応できるかと思います。

●官庁訪問

実は私は官庁訪問を2度受けています。一度目はオンラインで(環境省の結果はお察し)二度目は対面での受験でした。一度目は対策が全くできておらず、練習にも十分な時間を取れなかったのが敗因でした。またオンラインでの面接は自分には向いていなかったというのがあるかと思います。遠方であるためオンラインの選択をしましたが、対面とオンラインどちらかのコミュニケーションが苦手ではないかというのは意識しておいた方がよいかと思います。

訪問者カードは一度第三者の目を通すことをお勧めします。大学のキャリア支援などを活用して訪問者カードの修正と面接の練習を何度かしておくのが安心だと思います。面接自体は皆さん訪問者カードの内容から始まり、優しく話を広げてくださるので(他省庁も優しいですが環境省は圧倒的)、面接というよりはお話をするというような感覚が近いかもしれません。緊張せずに挑んでください。逆質問では課ごとの所掌する施策をいくつか調べておき、面接官の所属する課に合わせて質問ができるように、事前に数問仕込んでおきました。しかしながら途中でストックも切れ、普通に質問していたので、お守り程度でした。

●内定までの過ごし方

自身は卒業が九月ということで、人事の皆さんと相談し、前倒しの早期入省を選択しました。そのため官庁訪問の後は修論の執筆に追われ、気づけば卒業間近。すぐに引っ越し作業やもろもろの手続きに追われる形となりました。ですが自分の研究フィールド等、外に出る機会が一旦は減るので(総合職の場合)、心残りのないように十分に堪能することをお勧めします。私も9月に滑り込みで2航海分、小笠原を満喫してきました。

●アドバイス・メッセージ

1次試験から内々定までかなりの長丁場になります。しっかりモチベーションを保ちつつ、かといって気を張りすぎて研究が手につかなくなるような、自分なりのペースを探してみてください。特に、官庁訪問は体力も気力も要るハードな期間になります。途中で気力が折れてしまわないよう(絶望してうつむいたまま面接を受ける人も何人か見かけました)、少し肩の力を抜いてみるといいかもしれません。この記事が、読んでくださった皆さんの一助になれば幸いです。



オガサワラオカモノアラガイ/小笠原諸島

Fさん

【最終学歴】 修士課程修了

【学年/専攻分野】 修士2年/生態学

【試験区分】 森林・自然環境

【試験年度】 2025

【参加した説明会、インターン等】

各種オンライン説明会 7回

地方環境事務所インターンシップ

公務研究セミナー

【併願先】

林野庁、国土交通省、地方上級（林業職）、

建設コンサルタント（環境部門）



(1)志望動機

自然共生社会の実現に向け、国全体で取り組む政策づくりに貢献したいという思いから志望しました。

官庁訪問で提出した面接カードには、以下のような流れで記載しました。

- ① 大学で森林科学・生態学を専攻した理由（自然環境への原体験）
- ② 大学での学びや就職活動を通じて実感した自然共生の重要性、行政の役割
- ③ 研究活動を通じて気づいた、自然共生に向けた現状の課題
- ④ その課題解決に向けて自身が環境省で取り組みたいこと

志望動機全体を通して一貫性を持たせること、環境省政策のキーワードを使用することを意識し、自身の思いと政策の一致度の高さをアピールしました。

(2)体験記

●全般

民間企業や地方公共団体の夏インターンシップを終えた10月頃から、レンジャーを目指し始めました。11月の頭に学会があったため、本格的に勉強を開始したのは11月中旬からでした。

研究対象が野生生物であった都合上、研究を完全に止めることはできませんでした。そこで、研究と勉強にかかる時間が半々になるように週単位でスケジュールを組み、両立を目指しました。勉強は主に、研究室か学部棟の図書館で行い、すぐに研究に切り替えられる

ように意識していました。

大学院入試時に受験していた TOEIC のスコアが有効だったため、そのスコアを加点に利用しました。

●一次試験【基礎能力試験】

とにかく、時間を計って過去問を解くことを意識していました。特に、感覚がすぐに鈍ってしまう文章理解は毎日解くようにしていました。初めは、時間内に判断推理・数的推理を解ききることができずに戸惑いましたが、出題形式に慣れるにつれて得点が上がっていく感覚が少し楽しかったです。最終的には約 10 年分の過去問を、時間を計って解きました。知能分野（文章理解・判断推理・数的推理）については、市販の問題集（新スーパー過去問ゼミ）も使って対策をしました。知識分野はほとんど対策しませんでした。

●一次試験【専門多肢選択式試験】

過去問を解く→答え合わせをする→問題に関連する白書の内容をノートにまとめるという流れをひたすら繰り返しました。

基礎は学部で講義で学んだものがほとんどでしたが、研究室の専門外の分野はすっかり忘れてしまっていたので、森林・林業実務必携も使用して用語のノートまとめも行いました。

作成したノートは試験当日の空き時間に確認するお守りになるのでおすすめです。

●二次試験【専門記述式試験】

一次試験が終わってから対策を始め、過去問を 5 年分解きました。面倒でも、本番を想定して文章を書ききることを意識していました。一次試験と同じ科目（森林科学）を選択したので、一次試験で身に着けた知識を踏まえて回答することも意識しました。いきなり文章を書き始めるのではなく、問題に関連したキーワードを書き出し、箇条書きで文章の骨格を作成してから回答していました。

●二次試験【人物試験】

専門記述式試験が終わってから面接カードを作成しました。作成した面接カードは、総合職試験を受ける友人と交換して添削し、何度か面接練習を実施しました。

当日は、面接カードに沿って面接が進んでいきました。特段困った質問はありませんでしたが、手ごたえもありませんでした。民間企業の就活を経験していたおかげで、面接には抵抗感なく臨むことができました。

●二次試験【政策課題討議】

時事の参考書と ChatGPT を用いて模擬問題を作成し、本番を模した討議を友人とともに

何度か実施しました。本番では、資料に目を通してレジュメを作成するまでを20分で行いますが、練習ではこの時間を15分に設定していました。試験当日は、資料の情報量が模擬問題よりも多かったため、短い時間でレジュメをまとめる練習をしていて正解でした。

●官庁訪問

訪問者カードを作成し、二次試験時と同様に友人と交換して添削、練習を繰り返しました。訪問者カードに記載した内容について、「なぜそのように考えたのか、行動したのか」を突き詰めて、一貫性を持たせることを意識して練習に取り組みました。

第1、第2クールともに1日目に訪問しました。訪問期間を通して、複数の面接官とお話をしますが、1回の面接時間は短く、あっという間に終わってしまう感覚でした。投げかけられた質問にただ答えるだけでなく、伝えたい内容を端的に付け加え、短い時間の中で自身をアピールすることを心掛けました。また、官庁訪問直前にチェックしていた、自身の考える現状の課題や取り組みたいことに対する最近の動向（ニュースや研究論文など）を伝えることも心掛け、アンテナの高さをアピールしました。

面接官の方々は物腰柔らかな方が多く、特に第1クールでは面接よりも会話に近い形でお話をするのができ、自身の考えを素直に伝えることができました。面接と面接の間の時間や、第1クールと第2クールの間に、それまでに伝えた自身の直な考えを整理することで、改めて志望度の高さを再確認し、強い意志を持って次の面接に取り組めたことが良かったと感じています。

●内定までの過ごし方

官庁訪問が終わるまでは、研究と就活に追われて余裕のない生活を送っていました。内々定が解禁されてからは、引き続き研究に取り組みつつ、残り僅かな学生生活を謳歌するべく、旅行や遊びの予定でカレンダーを埋めることを意識しました。旅行先では国立公園を訪れましたが、内々定を頂いてから見る国立公園の景色は、それまで以上に美しく見えました。

●アドバイス・メッセージ

レンジャーを目指す決意を固めてから内々定まではとても長い道のりで、周りの友人が大手企業から内々定をもらって就活を終えていく姿を見ては、研究と就活との両立で余裕のない日々を送る今の自分に卑屈になることもありました。しかし、そこで自分の気持ちを曲げずに努力を続けられたことが、官庁訪問に臨む際の自信と強みになりました。また、国家総合職を目指す数少ない友人の存在が支えになりました。レンジャーになりたいという強い意志を持つこと、信頼できる他人を頼ることが重要だったと、内定式を終えた今感じています。あくまでご参考までに。

Gさん

- 【最終学歴】 修士課程修了見込み
- 【学年/専攻分野】 修士2年/動物系統学
- 【試験区分】 化学・生物・薬学
- 【試験年度】 2025
- 【参加した説明会、インターン等】
初心者向けオンライン説明会
- 【併願先】
なし



(1)志望動機

幼少期に親しんでいた田畑や小川が、地域開発に伴って姿を消していく様子を見て、自然に関わる仕事への漠然とした関心を持つようになりました。大学では動物系統学を専攻し、ジネズミ類を対象とした研究の一環として奄美・沖縄で現地調査を行い、島嶼ごとに異なる形態差や集団構造が生まれる背景には、自然環境と人の営みの影響が複雑に関わっていることを実感しました。また、ラオスでの調査でも、地域の自然を守るには科学的知見に加えて地域社会の理解、そして制度的な支えが不可欠であることを痛感しました。これらの経験から、希少生物の保護や外来種対策などを通じて地域と協働しながら現場で保全を進める環境省の取組に携わりたいと強く感じるようになりました。レンジャーとして、科学と地域をつなぐ立場から自然共生社会の実現に貢献したいと考えました。

(2)体験記

●全般

レンジャーをしたいという気持ちは以前からあったものの、部活と研究に没頭するあまり勉強は後手後手となり、常に火の車、付け焼刃の対策でした。全体として自分の専攻は深く、ジェネラルな素養は広く、下地を普段から作っておくことが必要な試験であるという感想です。直前の対策はもちろんですが、日々の積み重ねの上でそれを応用するという原則を忘れないことが重要だと思います。できるだけ早いうちから最終ゴールまでのプロセスを理解しておく、各試験が何を求めているのかが分かり、戦略を立てやすいのかなと思います。

●一次試験【基礎能力試験】

一月ほど前にまず市販の過去問を買って解いてみました。数的処理が難しく感じたので、重点的に数をこなし、素早く解放を模索できるようにしました。知識問題は時間と問

題数を鑑みて対策はしませんでした。

●一次試験【専門多肢選択式試験】

範囲が広く全てをカバーするのは難しいと思うので、普段の大学の授業の内容を身に付けておくことが肝要になってくると思います。自分はここで専攻の内容と関連する問題がほぼなく苦戦したため、ニッチな専攻分野の方は早めに大学の授業などを見返し始めると良いかもしれません。

●二次試験【専門記述式試験】

まず、関連する分野の入門的な教科書を数冊購入してざっと読みました。過去の出題傾向を把握するとかなり出題されそうな分野が絞れたので、それを基にヤマを張り、重点的に対策しました。記述は多肢と求められる解像度が全く異なるため、分野を絞ってそこだけを繰り返し勉強し、理解を深くしていく作業が大切なのかなと思っています。

●二次試験【人物試験】

特に対策はしませんでした。自分は一般企業の就活をしておらず、このような場には不安がありましたが、あまり突っ込まれた質問はされなかったので助かりました。面接カードを作る際などに何度か他の人に壁打ちをして、その中で自分は他者から見てどういう人間なのかや、持っている考え方を整理して、一貫性のある見せ方をできるように調整しておくといいのではないかと思います。

●二次試験【政策課題討議】

こちらに対策はしませんでした。自分は本番あまり議論についていけず、ある程度政策等を勉強して手材料をそろえていけばよかったと後悔しました。このようなディスカッションはあまりやる機会がないかと思うので、色々なイベントを利用しながら対策を行ってからいくと安心だと思います。

●官庁訪問

官庁訪問に関する情報はネット上にはほとんどなく、話を詳しく聞ける経験者もあまりいなかったため、とりあえず良い訪問者カードをつくり、自分の頭の中をシンプルでクリアな状態しておくことだけを考えていました。訪問者カードは国家公務員試験の合格が出てすぐに作り始め、何度も推敲しました。とにかく自分の考えや思いがまっすぐ伝わるような内容に仕上がるまで納得いくまで書き直しました。面接本番は短い面接が毎日数回ありますが、その中でも、自分自身がきちんと表現できるよう、各面接の意図するものは何なのかを意識しながら準備しておくことが大事だと思います。倍率が高い分、話す内容だけでなくそこに気持ちが乗っているか、入室から退室までの所作や挨拶など、すべてが自

分の評価につながっているような気がしました。

●内定までの過ごし方

内定を得るまでは半年ほどの長い期間であり、かつ研究や部活が忙しい中での対策となりました。この文章を読む多くの人にも、多忙な中で工夫してリソースを確保しながらの生活となると思います。逆に言えば、忙しい中でも工夫と発想次第で合格・内定まで到達できる、ということは忘れずに頭の中に置いていました。

また、研究と部活と就活と、それぞれ共通項があり、その部分の強みを生かしたり、技術を転用したりして、日々の中でしんどい就活の時間が独立しないように、他の楽しみとの連続性の中で対策を進めるようにしていました。

●アドバイス・メッセージ

昔の恩師の言葉で、大切にしている一節があるので、コピペしておきます。何かの助けになれば幸いです。

"自分との戦いに勝てたものが他者と勝負することができ、そして頂点を迎える。弱い自分と向き合い、苦しい自分に逃げず、立ち向かえたものこそ、人から信頼を得ることができ、そして、世の中から必要とされる人となる。

Hさん

【最終学歴】 修士課程修了→地方公務員

【学年/専攻分野】 既卒/保全遺伝学

【試験区分】 森林・自然環境

【試験年度】 2025

【参加した説明会・インターン等】

オンライン説明会、座談会

本省インターン

【併願先】 なし



(1)志望動機

環境行政の専門性が高い環境省で、地域の活性化や社会の発展と、環境保全が両立するような社会づくりを推し進めていきたいと考えたことが志望のきっかけです。国内の過疎地域では、豊かな自然資源に恵まれ観光業が地域の主力産業である一方で、長期的な視点に立った環境保全や鳥獣害対策の必要性を理解しつつも、対策が十分に行われていない現状があるということを知りました。これらの現状を目の当たりにし、自治体等が効果的な対策をより実施しやすい仕組みの必要性を実感したため、将来を見据えた政策の立案に携わることで支援していきたいと考えました。

(2)体験記

●全般

働きながらの受験で、まとまった勉強時間が確保できず焦ることもありましたが、メリハリをつけて対策した結果内定をいただくことができましたので、特に社会人からレンジャーを目指される方の励みになれば幸いです。

●一次試験【基礎能力試験】

試験3か月前頃から対策を始めました。過去問を確認しすべての試験範囲を網羅することは困難と悟ったため、数的推理と判断推理のみ「スーパー過去問ゼミ」を一周し、解けなかった問題を復習しました。時事問題では、日頃目にしていた新聞やニュースの知識が役立ちました。

●一次試験【専門多肢選択式試験】

過去問を5年分ほど解き、それぞれの選択肢の正誤の理由や関連知識をノートにまとめました。「森林・林業白書」を読み込むことも有効だったと感じました。

●二次試験【専門記述式試験】

1次試験と内容が重なる「森林科学に関する基礎」または「自然環境・公園緑地」のうち、当日問題を見て、解きやすいと感じた方を選択するつもりで臨みました。1次試験対策として作成したノートや使用した参考書、関連省庁のHPなどを再確認しました。

●二次試験【人物試験】

友人に面接カードの添削をしてもらいました。面接カードは概要しか書くことができないため、伝えたいことを質問してもらえよう、想定質問を考えながら作成しました。本番の面接は概ね面接カードの内容に沿って行われましたが、なぜ現職の地方公務員ではなく国家公務員なのかといった転職理由やその背景を深掘されたので、職歴がある方は回答を準備しておくと思えます。

●二次試験【政策課題討議】

特に対策はしていませんが、事前に公務員試験対策の情報サイトで進行等を確認しました。当日は自分の意見をまとめる時間が短いため、時間配分に注意が必要だと感じました。

●官庁訪問

2次試験終了後に対策を始めました。訪問者カードは、入省後に環境省の職員として働くことを具体的にイメージしつつ、細部までこだわって作成しました。内容の添削は、友人と家族に複数回お願いしました。これまでの経験を整理し環境省への志望理由を突き詰め、時間をかけて訪問者カードを作成したことが、面接時に自分の気持ちを言葉にする際に大いに役立ちました。これ以上はないと思える程度まで事前に準備をしたことによって、当日は過度に緊張することなく臨めたように思います。

●内定までの過ごし方

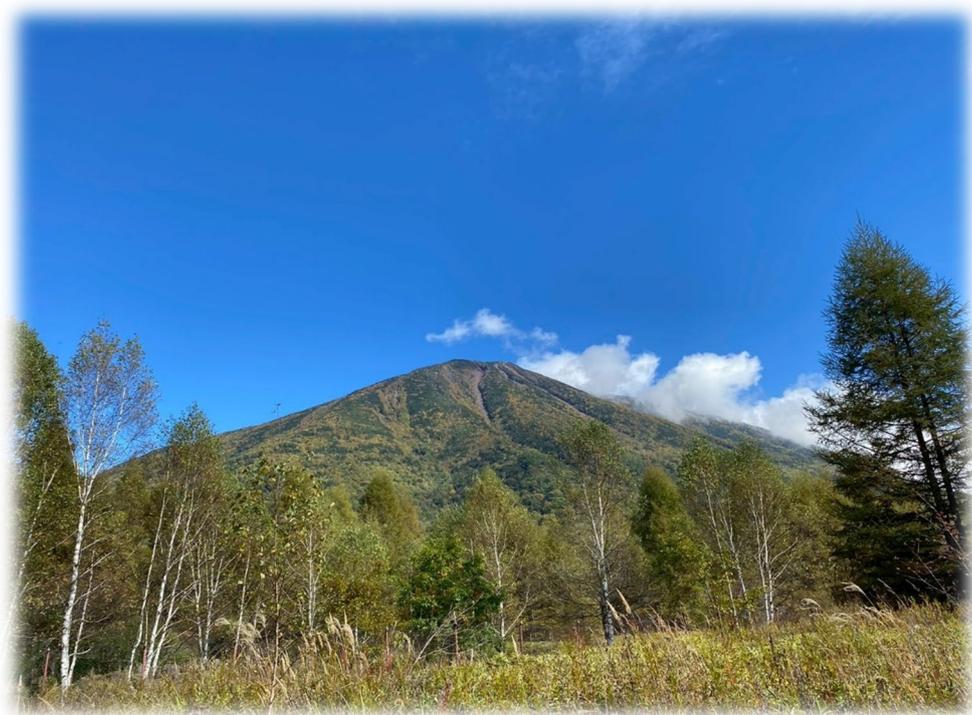
体調管理を心掛けつつ日常を過ごしているうちに、あっという間に内定式の日を迎えました。国立公園等に出向いた際には、環境省の現地事務所で働く職員の方を横目で拝見し、自分自身が働く姿をイメージすることもありました。

●アドバイス・メッセージ

現職を続けながらの長期に渡る試験は、漠然とした不安や迷いを感じながらの挑戦でした。しかし公務員として就職して以降、自分の人生設計や環境行政に対する考え方、今後携わっていききたいことなどを今一度深く再考する機会はなかなか設けなかったもので、官庁訪問を通して原点に立ち返って考えなおしたことは、とても有意義な時間となりました。

私の場合は、考え抜いて出した結論とその過程が、面接時の言葉に説得力を持たせられた
と思いますし、後悔の残らない結果につながったのではないかと考えています。

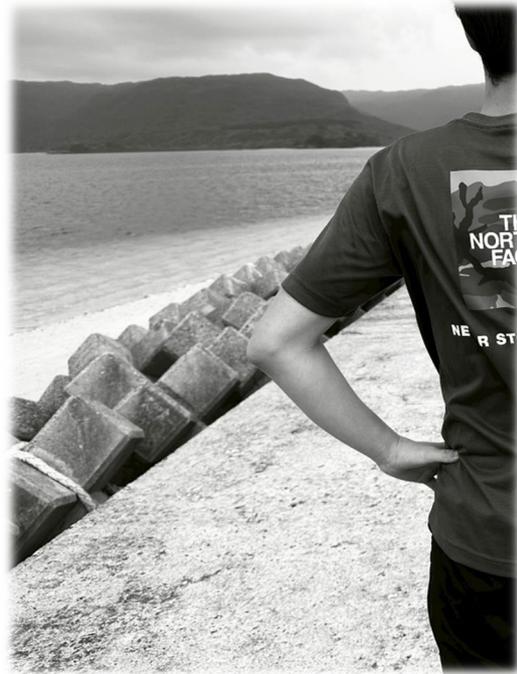
読んでくださったみなさんも自分が納得できるような選択ができるよう、心より応援し
ています。



男体山/日光国立公園

1さん

- 【最終学歴】 修士課程修了見込み
- 【学年/専攻分野】 修士2年/生物科学
- 【試験区分】 化学・生物・薬学
- 【試験年度】 2025
- 【参加した説明会、インターン等】
 - 自然系説明会（1～2回/月）
 - 理工系説明会（3回）
 - 公務研究セミナー（3回）
 - 霞ヶ関 OPEN ゼミ
 - 本府省合同業務説明会
 - 環境省就業体験プログラム（本省）
 - OB・OG 訪問
- 【併願先】 なし



(1)志望動機

かねてより、希少な野生動植物を取り巻く身近な環境の変化から、希少種の保全に強い関心を抱いてきました。幼少期には、頻繁に訪れていた自然公園の池でミナミメダカを好んで観察していましたが、現在では絶滅危惧Ⅱ類に指定されるミナミメダカの姿は次第に見られなくなる一方で、特定外来生物であるカダヤシが増加していく様子を目の当たりにし、希少種保全の重要性を痛感しました。

また、大学の野外実習で訪れた西表島では、絶滅危惧Ⅱ類指定のヤシガニが生息する海岸に、日本のみならず近隣諸国由来のごみが多数漂着し、生息環境が著しく悪化している現状に衝撃を受けました。

これらの経験から、希少種の保全には個人の意識改革や行動変容に加え、国際的な廃棄物問題や外来生物への対策など、包括的な取り組みが不可欠であると強く実感しました。

こうした課題に取り組むため、現場での保護管理から国際的な環境政策まで幅広く携わることができる環境省を志望しました。

(2)体験記

●全般

修士1年の年末から、過去問や市販の問題集（※後述）を中心に対策を始めました。

人事院への過去問請求（電子データ）では、手続きから受け取りまで約1か月を要したため、早めの取り寄せをお勧めします。図表や文章の一部は著作権の関係で未掲載であったため、大学のキャリアセンターに保管されている過去問（冊子）を閲覧して補いまし

た。

英語試験については、TOEIC での 25 点加算を利用しました。

採用候補者名簿は 5 年間有効であるため、時間に余裕のある方は早めに受験することをお勧めします。官庁訪問の前年までに合格しておく、その年は訪問に専念でき、研究などとの両立もかなり楽になり、精神的な余裕も生まれます。私は官庁訪問の年に受験したため、非常に慌ただしい思いをしました。

●一次試験【基礎能力試験】

試験の約 3 か月前から着手しました。

過去問を 2~3 年分解き、問題を効率よく解くための順番を決めました。

「文章理解」は比較的安定して得点できたため、「判断・数的推理」を中心に市販の問題集『スーパー過去問ゼミ』を利用し、対策しました。これらの分野には、効率的な解法を知らないと時間のかかる問題も多いため、主要なパターンを一通り身につけることを意識しました。

時事問題については、『速攻の時事』を利用しました。

基礎能力試験は出題数の少ない分野もあり、得意・不得意も分かれるため、実際の問題に触れ、自分に不足している分野を見極め、重点的に対策することが重要だと感じました。

●一次試験【専門多肢選択式試験】

試験の約 3 か月前から着手しました。

過去問を 2~3 年分解き、どの科目を選択するかは実際の問題を見て判断することにしました。

また、専門記述試験を意識し、遺伝学や生態学については記述形式にも対応できるようノートに整理しました。

●二次試験【専門記述式試験】

1 次試験終了後、過去問を 10 年分ほど解きました。

専門記述では、19 の分野から 2 つ（私は遺伝学と生態学）を選択しますが、未習分野からの出題も想定し、予備とする分野（細胞生物学）も学習しました。

過去問を解きつつ、理解が不十分な設問は関連する書籍を参照し、ノートに整理しました。

●二次試験【人物試験】

面接カードは、他省庁で働く友人に添削してもらいました。

また、面接練習には大学のキャリアセンターを利用しました。

より専門的な適性が求められる官庁訪問とは異なり、人物試験では、国家公務員としての資質が幅広く問われていると感じました。

●二次試験【政策課題討議】

キャリアセンター主催の講座や、参考書『論文・面接で問われる行政課題・政策論のポイント』を活用しました。

試験では、根拠に基づいて意見を述べること、多角的な視点から物事を捉えること、そしてメンバー全員の意見を尊重した議論の展開を心がけました。

●官庁訪問

第1クール1日目に環境省を訪問しました。

人物試験同様、訪問者カードは他省庁で働く友人に添削してもらい、想定質問も準備しました。

面接では、自身の経験を振り返り「どのような点に課題を感じたか」「思考の根拠や原体験は何か」を明確に伝えることが肝要だと感じました。

●内定までの過ごし方

座学だけでなく、各種説明会や就業体験プログラム、OB・OG訪問など可能な範囲で参加することで、入省後に目指す自身の姿をより明確にすることができました。

試験や面接など、約半年に及ぶ受験期間中は、国立公園をはじめ、博物館・水族館・動物園を訪れることで、ストレスを発散しつつモチベーションを維持していました。

また、スケジュールや体調の管理にも気を配りました。

●アドバイス・メッセージ

化学・生物・薬学区分の受験者は自然系では少数派のため、不安に感じることもあるかもしれませんが（私もそうでした）が、気後れせず前向きにチャレンジすることをお勧めします。

国家公務員の就職活動は長丁場であり、取り組むべきことも多岐にわたります。そのため、一人で抱え込まず、周囲の協力を積極的に仰ぎながら進めることが重要だと思います。

「やらぬ後悔より、やる後悔」と言われるように、迷った時はまず行動してみると良いのではないのでしょうか。やれることを無理のない範囲で全てやり切ることで、自信につながりますし、やらないよりも確実に意味があると私は考えています。ぜひ一歩、踏み出してみてください。

本体験記が、皆さんの背中を押す一助となれば幸いです。

Ｊさん

【最終学歴】 博士課程修了見込み
【学年/専攻分野】 博士 3 年/
【試験区分】 森林・自然環境（院卒）
【試験年度】 2025
【参加した説明会、インターン等】
オンライン説明会（3 回）
【併願先】
なし



(1)志望動機

生物多様性保全の促進に向けた制度づくりや国際協力の推進に携わりたいと考えたため環境省を志望しました。幼少期から生き物が好きであった私は、中学生の時にダーウィンの進化論に触れ、進化の歴史がもたらした生き物の多様性に強い関心を持ちました。その後、その多様性の世界的な減少を知り、保全に貢献したい気持ちが芽生えました。その影響から、大学院では生物多様性保全の促進に向けて、人々の生き物への認識や感情に着目した研究に取り組んできました。その中で、保全の成功には認識や感情の改善を始めとした保全活動を主流化する制度づくりが特に重要であること、そして、地球規模の課題である環境問題の解決は一国の努力だけでは成し得ないことを強く感じたため、特に生物多様性や自然環境の保全に向けた国内の制度づくりや地球規模での保全の推進に携わることができる環境省の自然系職員になることを志望しました。

(2)体験記

●全般

TOEIC は試験の前年度に受験し、加点が得られる基準点を獲得していました。全部の試験を通して、基本的に環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書をベースに勉強をしました。

●一次試験【基礎能力試験】

基礎能力試験については、勉強の開始日が試験日の 1~2 週間前になってしまったため、時事問題だけを速攻の時事という試験対策本を活用して勉強しました。しかし、結果的に、アルバイトの同僚、友人、家族などとの会話から得た情報の方が回答に役立ったため、日常的に様々なことにアンテナを張っておくことの方が重要かもしれません。また、基礎能力試験は選択式の試験ということもあり、とりあえず回答した答えが正解の場合もあるので、わからない問題があっても自分の感覚を頼りに必ず回答してください。私も、

運良く当たった回答がかなりありました（運も実力のうちだと考えます）。個人的に、専門多岐選択式試験の方が点数配分が高いこともあり、そちらに勉強の重点を置いていました（点数配分については人事院の Web サイトで確認できます）。

●一次試験【専門多岐選択式試験】

専門多岐選択式試験については、環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書を読み、知らなかった内容を自分なりにまとめることで勉強しました。ページ数が多いこともあり、全てをさらうことができなかつたので、早め早めに勉強を始めることをお勧めします。白書の内容をもとに回答できる問題も多かつたため、白書を読み込むことが効果的だと思います。

●二次試験【専門記述式試験】

専門記述式試験についても、環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書の内容をさらうことで勉強しました。1次試験の専門試験でも白書を元に勉強をしていたので、その延長のような感じで勉強方法は同じでした。また、インターネットで公開されている過去問を参考に、どのような問題が出るかを予想し、その分野について重点的に勉強しました。

●二次試験【人物試験】

受験ジャーナルの体験記を参考に面接カードを作成し、両親など身近な人に見てもらうことで推敲を繰り返しました。作成を開始したのが専門記述試験の後で、結局人物試験の前日まで推敲を繰り返していました。作成後は、面接で聞かれそうな質問に対する一問一答を作成し、受け答えがスムーズにできるように対策しました。このおかげで、詰まることなく面接を終えれたと考えます。入退室のマナーについてもおさらいし、楽しくハキハキと会話することを意識して面接に臨みました。

●二次試験【政策課題討議】

政策課題討議試験についての対策は特にしていません。ただ、研究室や学会における発表や日常での議論の機会を通して自分の意見を述べることや議題について議論することには多少慣れていたと思うので、その経験が活かされたと思います。議論が始まると自然と各々の役割が決まると思うので、その役割をしっかりとこなすことを意識し、議論がどのような方向に進んでいるのかを把握し続けることが大切だと考えます。討議や討議の前のレジュメ作成では時間管理が求められるため、腕時計は必ず持って行ってください。私は当日の朝に腕時計が壊れていることが発覚し、朝一番で DAISO に買いに行きました。余裕を持った準備も大切だと考えます。

●官庁訪問

官庁訪問では訪問者カードをもとに面接が進められますが、訪問する前にはこのカードを提出して訪問の予約をする必要があります。予約は先着順で埋まってしまうので、明確な訪問希望日がある際には公務員試験の最終合格が出る前から準備を始めた方がいいと思います。私は最終合格発表後から準備を始め、推敲を重ねるうちに訪問の予約が予想よりも遅れてしまいました（結果的に希望は1日目でしたが2日目の訪問となってしまいました）。

官庁訪問においても、訪問者カードを元に面接での質問を予想し、一問一答を作成しました。ただ、面接では現役官僚の方々と会話ができる貴重な時間を楽しむことに重きを置き、想定問答はある程度頭に入れてはあるものの、その時の自分の言葉で会話することを意識しました。

第1クール、第2クールともに、面接開始時間の30分前には最寄駅に着くよう調整し、日比谷公園を散策しながら想定問答を振り返ってから面接会場に向かうというルーティーンで臨みました。面接と面接の間に時間があることもありますが、その際も日比谷公園で面接で聞かれたことを振り返ったりしながら過ごしていました。また、一つ一つの面接には、この面接が最後になるかもしれないことを意識して臨みました（それでも悔いが残ることはありませんが）。

●内定までの過ごし方

内定式までは大学院の研究活動を行ったり、これまで我慢していた旅行に行ったりしていました。試験が終わったからといって気が緩みすぎないように、次は卒業に向けて頑張ろうという意識で日々を過ごしていました。

●アドバイス・メッセージ

筆記試験の対策も大切ですが、私が何よりも大切だと感じたのは人物試験や官庁訪問に向けて自己分析をすることです。自分がなぜ環境省を目指すのか、そしてなぜ自然系職員を目指すのかを明確にし、身近な人との対話を通じて長所や短所などの自分の性質を見極めることで、自分が目指す場所とそこで自分がどう生きると思うのが明確になると考えます。また、それが明確になることで、筆記試験にも力が入るのではないかと思います。

席次や訪問日については、私自身、席次が70%以下で訪問日が2日目なので、可否にそれらはあまり関係ないと思います。あまり気にせずに、官庁訪問では訪問者全員が同じスタートラインにいると考えると気が楽になるかもしれません。

最後に、この場で書くのが適切かはわかりませんが、人生にはレンジャー以外の道が無数にあり、進むことになった道が自分にとって最適な道なのだと思います。ちなみに、私はレンジャーになれなかったらとりあえずアカデミアに進もうと考えていました（進める保証もないのにです）。なので、あまり気負いせずに、なるようになる精神で試験に臨むことで自分の本来の力が出し切れるのではないかと思います！

Kさん

【最終学歴】 修士課程修了

【学年/専門分野】 修士2年/自然環境学

【試験区分】 森林・自然環境

【試験年度】 2025

【参加した説明会、インターン等】

オンライン説明会(3回)

オンラインOB職員訪問

大学での説明会

【併願先】

文部科学省、環境コンサルタント



(1)志望動機

子供時代から登山が好きで自然に親しむ生活をしてきたこともあり、自然景観や環境を守りたいという気持ちはなんとなく持っていました。一方で自分自身が非常に多趣味なこともあり、特に公務員や環境省に絞った進路希望を持っていたわけでは全くありませんでした。そんな中、民間就活中に思うようにいかなかったことがきっかけで、国家公務員、とりわけ環境省のレンジャー職について改めて検討する機会が生まれました。職として安定しながら、自身の原体験に基づいた、やりがいのある環境保全などの仕事ができる点を魅力的に思い、受験半年前頃から検討するようになりました。

(2)体験記

●全般

私が公務員試験の受験を決めたタイミングは前年の9月であり、受験生の中ではだいぶ遅い方だと思います。いくつかある公務員試験のサポートをしてもらえる予備校のうちからひとつを選び、web受講のコースを申し込みました。年末にかけては基本的に一次試験のうち基礎能力試験の勉強をし、年明けあたりから一次専門についても取り掛かったくらいだと記憶しています。基礎能力試験の対策については巷に教材がたくさん存在しておりそれほど苦労しない一方で、理系の専門科目の対策教材は市販購入が難しく、ペーパーテストで苦労したところでした。公開されている過去問は量が少ないため、早めに人事院に開示請求を行い過去問の量を確保すると安心できると思います。

●一次試験【基礎能力試験】

勉強時間の大半は数的処理に使用しました。時間をかければ解くことができる問題をスピーディに解けるように、過去問や演習問題で訓練をしたことが本番でも役に立ったと思

います。その他は英単語の復習や、情報問題の演習、時事対策などを行いました。全範囲を完全に対策することは難しいので、一度まるまる時間を図って過去問かそれに相当する問題を解き、分野ごとにどの程度点数を伸ばすのか、捨てるのかの戦略を立ててから勉強することをおすすめします。

●一次試験【専門多肢選択式試験】

森林自然環境の問題は12科目から3科目を選択するのですが、自身の大学の専攻と完全に一致していない限りはある程度の勉強が必要になってきます。私の場合、まずは過去問で全分野を解き、自身が解けそうなものを5科目ほどに絞って勉強し、本番は手ごたえで選択するという流れで取り組みました。大学院の入試程度の難易度なので類似する大学院の入試問題を入手しようという情報を得ましたが、その入手に時間をかけるくらいなら普通に過去問周辺知識を本やネットで収集する方が良いと思います。

●二次試験【専門記述式試験】

私の場合正直なところほとんど対策の時間を取ることはできませんでした。官庁訪問も見据えて環境白書を重要そうな場所だけ読み、あとは一次専門の勉強で最低限カバーできていると信じて臨みました。記述になるので、論理的な文章を書くのが苦手であれば過去問を解いた解答を誰かに見てもらうのもいいかもしれません。

●二次試験【人物試験】

面接カードの作成、および面接練習は、勝手を理解している誰かに見てもらうことを強くお勧めします。知り合いに既合格者がいればその人に頼むのが良いでしょう。いなければ大学のサービスを利用するのも良いと思います。私の場合は予備校の面接対策サービスを利用しました。評価がA B C D Eの五段階で分かれており、一つ上の評価を取るだけでも点数的に二次専門など他試験の比率がだいぶ楽になるので、対策に時間をかける価値があると思います。

●二次試験【政策課題討議】

民間企業を併願しておりグループディスカッション対策の経験があれば、特にそれ以上のものは必要ないと思います。自分はそういった経験がほとんど無かったので、大学が主催するグルディス対策ワークショップに1回だけ行きました。最低でも1回はグルディス形式の何かを経験しておくべきでしょう。

●官庁訪問

人物試験と同様に、訪問者カードの作成時の添削や面接練習を行えると良いと思います。ただし人物試験に比べて官庁訪問はマッチングの要素が大きいため、完璧に準備しき

るということは不可能です。説明会やOB訪問等で聞いたことなどを整理して、あとは自然体で臨むことをおすすめします。官庁訪問を楽しめているな～と職員の方々に思っただけだと合格が近づくような気がしています！

●内定までの過ごし方

内定式では職員の方から「今しかできないことをやっておくのが良い」という言葉を多数いただきました。旅行をしたり、友達と遊んだり、学業に支障のない範囲で思い出を作っておくのが良いでしょう。

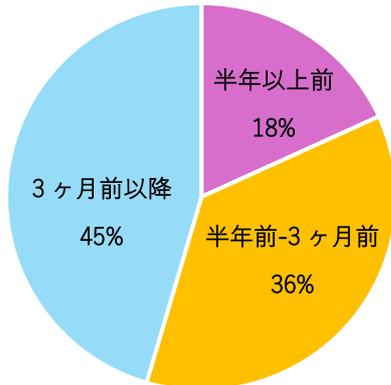
●アドバイス・メッセージ

私自身、就職活動にあたっては自分の進路選択に非常に悩み続けてきました。民間企業に就職すべきかどうかを考えていてなかなか対策に手が付かないような時期もありましたが、結局働き始めてみないとわからないと割り切り、自分の今の努力を信じるマインドセットが重要だったと思っています。国家公務員が圧倒的に志望度が高い場合でも、面接等の対策や視野を広げることに役立つので、民間企業の就職活動は少しだけでもやっておく方が良いかなと個人的には考えています。そして説明会や職員訪問などを通して、「この業務のここが楽しそうだな」というポジティブなポイントを沢山見つけていくことをおすすめします。内定まではあまりにも長い道のりが続いています、一歩ずつ進んでいくといずれ山頂にたどり着けるはずです！

内定者による内定者アンケート

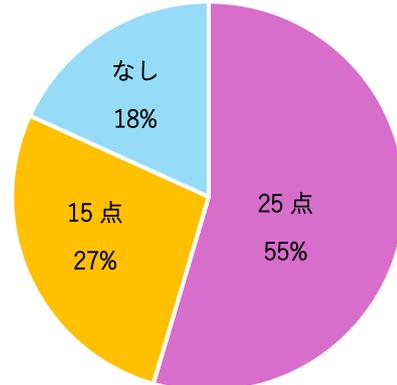
内定者 11 人に、試験の準備や面接対策について聞いてみました！

Q.1 勉強開始の時期は？



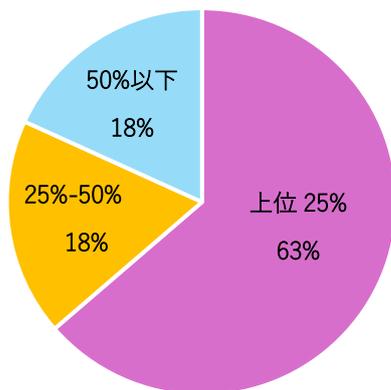
半年以上前から始めた人もいますが、3ヶ月前以降から勉強を始めた人が最も多くなっています。

Q.2 英語の加点は？



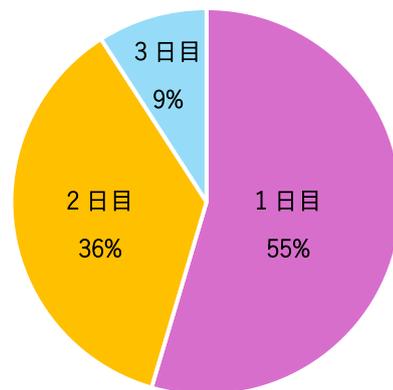
多くの人が英語加点を利用していました。受験から5年以内のスコアを利用することができるので、早めの受験がおすすめです。

Q.3 試験の席次は？



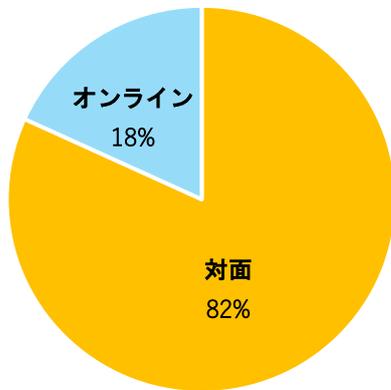
今年は上位 25%の人が多くですが、例年幅広い席次の人が採用されています。

Q.4 官庁訪問は何日目？



今年度の内定者は1日目に訪問する人が多かったようですが、2日目・3日目にも訪問することもできます。

Q.5 第一クールの訪問形式は？



ほとんどが対面で訪問しましたが、第一クールはオンラインで面接を行った人もいました。

Q.6 併願先は？

- 林野庁・地方上級
- 国家一般職
- 文部科学省・環境コンサルタント
- 林野庁
- 林野庁・国土交通省
- 林野庁・原子力規制庁・一般職
- 特許庁
- なし (4人)

Q.7 環境省を知るためにおこなったこと・参加したイベントは？

- 説明会
- 本省インターンシップ/就業体験プログラム
- 地方事務所インターンシップ
- オンライン職員訪問
- サマートライアル
- 霞ヶ関 OPEN ゼミ
- 公務研究セミナー
- 本府省合同業務説明会
- OB 訪問
- 大学の官公庁 OB・OG 訪問会
- 環境省レンジャーとの共同研究
- レンジャーの先輩との相談
- 白書を見る
- 環境省 HP を見る

対面・オンライン両方で、環境省を知るためのさまざまなイベントが開催されています。ぜひ参加してみてください！

※複数者の回答は下線

Q.8 就活でやって良かったことは？

【試験対策】

- 身近な人の意見を聞きながらの自己分析
- 白書をたくさん読むこと。
- 環境行政に関連する時事の確認
- 自然環境に関するニュースや論文をチェック
- 英語の勉強。TOEIC だけでなく基礎能力試験や面接で役立った。
- TOEIC を活用した英語加点

【面接対策】

- 大学のキャリア支援センターでの面接対策
- 大学キャリアセンターでのキャリア相談
- 友人・先輩に訪問者カードの添削をしてもらった
- 友人・研究室の同期・先輩に面接練習をしてもらった

【その他】

- 研究や部活に打ち込んだこと。
- 民間企業での面接経験。
- 色々な企業の説明会に参加すること。
- 就業体験プログラムや OB 訪問をはじめ可能な限りレンジャーを知り、モチベーションを高めた。
- 同じ受験者との情報交換。
- 生協やキャリアセンターで情報をもらうこと。

Q.9 就活で不安だったこと、悩み事は？

- 卒論・研究との両立。
- 理系受験の情報が少ないこと。
- 一人で勉強するのが辛かった。
- レンジャーを志望し始めたのが秋だったため、対策が間に合うか不安。
- 試験の回数が多かったので、最後まで受かり切れるかが不安だった。
- 内々定時期が遅めなため、周囲と比較して就活が上手くいっていないように感じる。
- 併願先がなかったこと。
- 官庁訪問への漠然とした不安。
- レンジャーの採用枠が少ないこと。
- 地方との往復で、交通費や宿泊費に胃が痛くなる思いだった。
- 官庁訪問の面接が予想より短時間で自己アピールできたか不安だった。

- 採用の基準が分からなかったこと。

Q.10 就活での失敗談は？

【全体】

- インターンシップの応募締切りを間違えており、申請できなかった。
- 英語試験の加点の有効期限が5年であることを忘れており、加点なしになってしまった。
- 部活に夢中で気づいたら民間の時期を逃していた。

【試験対策】

- 専門記述対策が不十分だったこと。
- 一次試験と学会発表が同時期になり、両方の準備が満身にできなかった。

【面接】

- 面接にて「最後に何かありますか？」と聞かれ特にありませんと言ったこと。面接後、もっと自己アピールすればよかったと後悔しました。
- グループワークでは他人の優れた点に圧倒され消極的になりがちでしたが、気後れせずに意見を出し、議論全体を俯瞰する意識を持つことで、落ち着いて臨むことができると思います。
- 面接カードの誤記入に当日に気がついたこと。
- 人事院面接でジャケットを忘れたことに、新幹線に乗った瞬間に気づいたこと。
- 民間企業のオンライン面接中にカメラが故障し、自身の映像が途切れたこと。

Q.11 就活でやっておけば良かったと思うことは？

【全体】

- 早めの準備
- インターンシップ
- 本省インターンシップの参加・試験を大学院入試の時に受験しておけばよかった
- 最初から業界・企業を絞らずに、視野を広げる
- OB・OG 訪問
- 官庁訪問の前年に試験を受けておくこと

【試験・面接対策】

- 専門試験（記述式）のアウトプットの練習
- 様々な方と面接練習を行う中で、なかったときほど、練習相手との相性やその場の雰囲気へのせいにせず、自分の課題として丁寧に見つめ直す習慣を身につけておくこと
- グループディスカッションの対策、場数を踏む

- 面接の練習は早ければ早いほどより完成度が上がったろうと後悔しました。
- 環境省に関する知識だけでなく、環境行政とそれに付随する社会の仕組み・問題などをより広く頭に入れて置ければよかったと思いました（国内・国外問わず）。
- eco 検定は申し込み期限が過ぎていて受けられなかったのですが、基礎的な知識をつけるのに最適だと思うため受験できていればと思いました。

Q.12 気分転換の方法は？

- | | |
|---|----------|
| ● 食事 | ● スーパー銭湯 |
| ● 散歩 | ● 睡眠をとる |
| ● 旅行 | ● ライブに行く |
| ● サッカー観戦 | |
| ● 友人との会話や通話 | |
| ● 友人との食事・映画・旅行 | |
| ● 就活が終わったらしたいことリストを作る | |
| ● 動物園や水族館、博物館などを訪問する | |
| ● モヤモヤしたら、一旦寝てスッキリすること。 | |
| ● ラボのメンバーのサンプリングに何度か同行して外に出ることで気を紛らわしていました。 | |

それぞれにあった方法で息抜きをしていたようです。

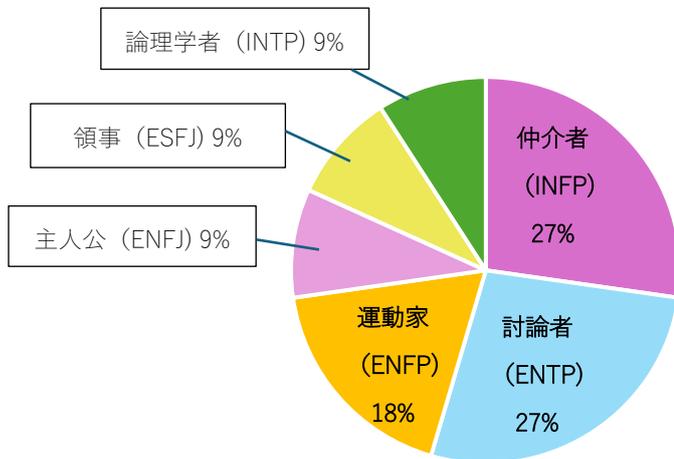
Q.13 面接・官庁訪問で難しかった質問は？

- 官僚とは何か？
- 法律を制定する際に気をつけなければいけないことは？
- 自分の信念のために環境を保全したいのか、誰か他人のためなのか？
- なぜ公務員を志望するのかという問いに、自身の目指す目標が研究職からでは目指せないことをうまく説明しきれず、軽い口論のようになってしまいました。反省していません。
- 年上の方と年下の方、どちらと関わるのが好き？
- 現場で自然と触れる以外の業務も多くあるが、それらに対してどう向き合うか？
- 自然環境保全と再生可能エネルギーの推進をどのように両立して進めるのが適切と考えるか
- (漠然とした状況を与えられ)このときどう対応しますか？
- 何か話したいこと、ありますか？
- 環境省と他省庁の違いは？

Q.14 面接等で印象に残った職員の方々の言葉は？

- 逆質問に対して「さすが。鋭い質問だね。」と言っていたときは、面接の準備を入念に行った甲斐があったと感じた
- 面接開始時に「楽しくお話ししましょう」と声をかけてくださった
- いつも面接前や終了後の案内時に「リラックスしてくださいね」「お疲れさま、きっと大丈夫！」と声をかけてくださったこと
- レンジャーの業務は一見すると自然を相手にする仕事のように思われがちだが、実際には人と関わる場面が多い
- 激務なのは間違いない
- 世間は名も知らぬ生き物にお金を出してくれません
- 自分のやりたいことに忠実に、大学生活も頑張ってた
- 面接会場まで案内していただいた方の「当時の自分も緊張していた」で少し緊張が和らいだ

Q.15 あなたのMBTIは？



MBTIとは、心理学者カール・ユングの心理学的類型論に基づく性格診断です。アンケートの結果により16タイプの性格に分類されます。

受験で使用した参考書・資料一覧

※ 複数人が使っていたものは太字

【基礎能力試験】

- 過去問
- 公務員講座のテキストと問題集
- 予備校テキスト
- 国家総合職・教養試験過去問 500 (実務教育出版)
- 速攻の時事 (実務教育出版)
- 新スーパー過去問ゼミ (数的推理・判断推理、文章理解・資料解釈) (実務教育出版)
- 公務員試験の教科書時事本 (公務員のライト)

【専門試験 (森林・自然環境)】

- 過去問
- 大学の授業資料・ノート
- 森林・林業白書 (林野庁)
- 環境白書 (環境省)
- 食糧・農業・農村白書 (農林水産省)
- 森林・林業実務必携 (朝倉書店)
- 自然公園の手引き (自然公園財団)
- 各省庁ホームページ

[環境省(<https://www.env.go.jp/>)、

林野庁(<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kouhou/bunyabetsu/index.html#bunyabetu>)]

【専門試験 (化学・生物・薬学)】

- 過去問
- 生態学入門日本生態学会編 (東京化学同人)
- 遺伝学 (中村千春)
- キャンベル生物学 (丸善出版)
- Molecular Biology of THE CELL (NEWTON PRESS)

【人事院面接】

- 大学キャリアセンターの面接練習
- 公務員試験 現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本 (実務教育出版)
- 公務員試験 現職人事が書いた「自己 PR・志望動機・提出書類」の本 (実務教育出版)

版)

- 受験ジャーナル公務員試験
- 予備校テキスト

【政策課題討議 / 政策論文試験】

- 論文・面接で問われる行政課題・政策論のポイント（実務教育出版）
- 大学キャリアセンターの模擬練習
- 受験ジャーナル公務員試験
- ネットの情報
- 自論公論(NHK)
- 専門試験と同じ
- chat GPT

【官庁訪問】

- ネット上の体験記
- 採用パンフレット
- 環境省 HP、各省庁の HP
- 環境白書
- 公務員試験 現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本（実務教育出版）
- 循環型社会白書
- 生物多様性白書
- eco 検定テキスト
- 日経新聞
- 学内のキャリア支援センターでの面接練習
- 自然環境系の論文

【その他、全期間を通して使用したもの】

- 内定者の声
- 環境省 HP
- OB 訪問
- 国家公務員総合職(化学・生物・薬学)過去問の解説
- 公務員試験受験ジャーナル（実務教育出版）

おわりに

「内定者の声」を最後までご覧いただき、ありがとうございます。

本冊子を通して、レンジャーを強く志す方、興味を持ち始めた方など、レンジャーを目指す皆様のお力に少しでもなることができれば幸いです。

レンジャーを志す皆さんにとって、内定までの道のりは長く、ときには思うように進まず、焦りや不安に押しつぶされそうになることもあるかもしれません。そんなときこそ、等身大の自分を受け止めながら、自分の歩幅で目の前の一步を積み重ねていくことが、内定への確かな前進につながるはずです。

内定後の働く自分を思い描きながら、「レンジャーになりたい」という素直な思いを持ち続けることができれば、きっとその先には、自然と向き合い、人と自然をつなぎながら活躍する未来の姿があります。

皆様と、自然と人との豊かな関わりが続く未来のために、共に歩み、働ける日を、内定者一同、心より楽しみにしております。

令和8年度 環境省総合職自然系 内定者一同



上高地/中部山岳国立公園